【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成23年11月24日(2011.11.24)

【公開番号】特開2009-139804(P2009-139804A)
【公開日】平成21年6月25日(2009.6.25)
【年通号数】公開・登録公報2009-025
【出願番号】特願2007-318120(P2007-318120)
【国際特許分類】
*Ｇ０２Ｂ　6/36　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｂ　6/36

【手続補正書】
【提出日】平成23年10月7日(2011.10.7)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項４】
スイッチの一部がシャッター側に向けて突出して延設されて非嵌合時にはシャッター拡開作用を阻止する突起部となり、前記シャッターには、嵌合時において前記スイッチが左右方向に移動され解除位置に移動した場合にのみ、前記突起部が衝突しないで通過できる切欠き部が設けられていること、
を特徴とする請求項１乃至２のいずれかに記載のシャッター付き光コネクタプラグ。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
前記スイッチは、シャッターを回転自在に支持する回転軸に共用して支持されると共に、この回転軸に巻装され前記シャッターを閉蓋方向に常に付勢するトーションバネによって後退阻止位置に付勢されていて、当該トーションバネの付勢力である回転力と押圧力とを兼用させていることである。
前記後退許容手段は、プラグフレームの表面において略Ｌ字形に形成された凹状の後退用溝部であり、スイッチの一部がその後退用溝部の底面に向け突出させて延設され、その延設部の先端部が当該後退用溝部の内部に遊嵌されていることである。
更に、発明の変形例として、前記本体部の一部がシャッター側に向けて突出して延設されて非嵌合時にはシャッター拡開作用を阻止する突起部となり、前記シャッターには、嵌合時において前記スイッチが左右方向に移動され解除位置に移動した場合にのみ、前記突起部が衝突しないで通過できる切欠き部が設けられていることである。
また、前記スイッチにおける前端部には、嵌合時に当該スイッチを後退阻止位置から解除位置に移動させる、前方に向かって尖塔状になるテーパ部が形成されていることを含むものである。